

## 第3回小郡市男女共同参画社会推進審議会 会議概要

### ○日時

平成31年2月14日（木）10時00分～11時00分

### ○場所

小郡市役所 西別館3階会議室

### ○出席委員（敬称略・50音順）

奥村、柏、永利、中村、野口、本郷、松尾、松葉、村山、米倉

### ○事務局

山下経営政策部長、高田秘書広報課長、天野

### ○次第

#### 1 会長あいさつ

#### 2 経過

#### 3 議題

##### (1)第2次小郡市男女共同参画計画 施策見直し（案）

（事務局説明）

（議長）

- ・事務局からの説明に対し、意見や質問などはないか。

（委員）

- ・20ページの農業委員の女性登用について、現在17.4%で目標が30%となっている。全国的にも小郡市は高い数値だとは思いますが、人数が多くなっても女性の意見は通りにくい、言いにくい雰囲気があるようだ。内容的にも変えていけたらいいと思う。

（委員）

- ・一般的に人数が3割を超えると意見が言いやすくなると言われている。目標を達成で

できれば意見は通りやすくなると思うが。

(委員)

- ・年齢が高い方が多く、人数の問題ではなく、言いにくいようだ。

(事務局)

- ・目標を達成するために啓発を行い、それによって数値もあげていく。まずは意識を変えていくことも重要だと思う。農業委員会にも話をして進めていきたい。

(委員)

- ・12 ページについて、育児休業取得率の目標を 20%としているのはいいと思う。育児休業の取り方はいろいろある。自分の夫も育児休業を 2 か月取得したのだが、3 人目の出産時にきょうだいの世話をしてくれた。料理を全くしなかった夫が、料理ができるようになった。いい制度だと身をもって感じた。計画の修正をお願いするものではないが、取得しやすい環境づくりをそれぞれの職場で意識してもらいたい。

(事務局)

- ・29 年度は対象者が 9 名のうち 1 名が取得した。10 か月間の取得だった。今年度はもう一人短期間ではあるが取得している。長期間取得する職員が徐々にでも出てくれば雰囲気が出てくると思う。環境づくりが大事なので人事法制課と協議しながら努めていきたい。

(委員)

- ・昨年、大分県のある市で男女共同参画計画策定アドバイザーをした。そのときに小郡市には男性にも出船補助休暇があり、取得率が 100%であるということを話すと、どよめきがおきた。小郡市はすごく進んでいると思う。市によって違いがあることを実感した。

(委員)

- ・男性の家事育児参画の取組は素晴らしい。ここで終わらずに広げてほしい。広報などで育児休業を取得した職員の感想を載せるなど、啓発を検討してもらいたい。せっかく良い経験をした方がいるので、スケジュールについてなど大変さなどを伝えられたら、大きな意味があるのではないか。

(委員)

- ・これを広げていくためには、単に男性に育休をとろう、というだけでなく、これが女

性の活躍につながり、職場の中の関わりが変わってくるということも発信してもらいたい。

(事務局)

- ・可能な限りやっていきたいと思う。

(委員)

- ・県の職員で福利厚生は充実していると感じているところはある。今回も大変な職場ではあったが、周りのサポートで夫の育休取得ができた。本人も私も取得できて良かったと感じている。女性は出産をして強制的に環境が変わるが、男性が親になって休暇を取ろうと思っても取りにくい。民間や小規模な職場ではより取りにくいと思うので、まずは県や市の職員がモデルをつくることで取りやすくてきたらと思う。サポート体制を充実させるためにも啓発も大事だと思う。

(委員)

- ・今後は育児休暇だけではなく、介護休業なども必要になってくる。

(委員)

- ・事前に送ってもらった資料を見て、前回の審議会の意見をよく取り入れてもらっているのありがたい。

(委員)

- ・24ページの「市民と協働して進めるまちづくり」はこれから大切になってくる。地域の課題解決のために、地域の役員の体制などが変わっていくことが必要だと思う。地域の関係団体との連携強化をさらに進めてほしい。

(事務局)

- ・具体的に地域に入っていくのはまだできていない現状だが、広報による啓発や女性協議会に協力いただくという形で行っている。女性協議会については、地域で寸劇を通して啓発活動を行っている。先月も三国校区の人権のまちづくりの委員会で寸劇を披露し、そのあとワークショップ形式で話し合いをしてもらった。女性協議会とも連携して、地域の中で問題意識をもってもらおうということから進めていきたい。

(委員)

- ・寸劇、ワークショップの場に区長として参加した。そのときの感想では、寸劇のようなことは古い、今はもうないというものもあった。女性の地位向上は進んできていると

感じた。寸劇の内容も変える必要があるかもしれない。

(委員)

・進んでいるといっても、まだまだとも聞く。お正月は、田舎では女性は世話をしないといけないから実家には帰りたくない、という話も聞く。寸劇も同じテーマで内容を変えることもできるのではないか。

(委員)

・勤務しているところが学校なので、学校での様子をお伝えする。自分が初任の頃は、学校の中には女性管理職はいなかった。今はかなりいる。名簿も男女混合になり、かなり変わったと感じる。担任をもたない専科の先生が小学校にはいるが、23年前に男女共同参画の視点で男性の自分が家庭科の専科をした。研究集会の分科会では、女子教育から両性の自立と平等と名称が変わった時期だった。児童にアンケートをとったことがある。男女ともに結婚後も仕事を続けたい、という結果だった。男女で差があったのは、家事はどちらがするかという質問だった。意識の違いを感じた。お母さんの姿を見ると仕事と家事の両立が大変だと感じている女子児童がいた。子どもが生まれると一度仕事を辞めて、パートなど非正規で働くと書いている女子児童もいた。出産後も正規で働くことができる社会であってほしいと思った。子どもには選択肢を広げてあげたい。素敵な大人のモデルがたくさんいることが大事だと思う。

(委員)

・学校の中の雰囲気について、職員は県の職員になる。小郡三井の男性の先生で育休をとっている人は知らない。制度としてはあるが担任をもっていると休めない。代わりの先生がなかなかいない。取得しにくいと感じる。そこを改善していく必要がある。また、根強いなと感じることがあった。女性の先生が自分の子どもの担任になるとハズレと感じる保護者もいるらしい。男女で指導力に差はない。家庭の中の啓発を進めていく必要がある。女性というだけでそう思われるのはおかしい。直接言われたことはないが、保護者の中ではそういう話があるようだ。

(委員)

・民生委員の代表としてきているが、民生委員は何年か前は男性が多かったが、今は6～7割が女性である。定期的集まりがあるが、男性の目ではわからない女性ならではの見守りの視点を聞くことがあり非常に勉強になっている。

・協働のまちづくりにも参加している。区長が主に出席されているがほとんどが男性。意見が男性の目からばかりで女性の意見がない。今後は、区長についても女性を選出してもらい会議に出席してもらうことで活動も変わると思う。

・民間で働いていたが、当時は課長職に女性はいなかった。自分が退職するときには女性管理職が出てきていた。女性でも男性と同じように仕事をしていた。民間でも変わってきている。育児の長期休暇については難しいのではないかと思う。代替りの人がいない。人が多い会社だったがそれでも難しい。民間でも変わってきていると思うが、数年前はそういった状況だった。

(議長)

たくさんのご意見をいただいた。その他にご意見がなければ、この見直し(案)をもって答申したいと思う。答申文の確認を行う。

[答申文(案)配布]

(議長)

・答申文についてご意見等はないか。なければ、副会長と私に一任いただき、この答申文で市長に答申する。

## (2)実施状況報告書の様式(案)について

(事務局説明)

(議長)

・事務局からの説明に対し、意見や質問などはないか。

(委員)

・例年の様式は量が多かった。

(委員)

・わかりやすいと思う。

(議長)

・実施状況報告の様式(案)については、提案の内容でお願いする。

## 4 今後のスケジュール

(事務局説明)